90　学生短歌会合同合宿二〇一五夏◇谷村行海

92　贈答歌会録◇小野みのり

96　二〇一五年度活動記録◇榛葉純

学生短歌会合同合宿二〇一五夏

担当◇谷村行海

二〇一五年九月四日から九月六日にかけて東京の奥多摩で学生短歌会の合同夏合宿を行った。学生短歌会の合同夏合宿参加団体数は年々増え、今年度の合同合宿参加団体は早稲田短歌会、京大短歌、東京大学本郷短歌会、立命館大学短歌会、北海道大学短歌会、大阪大学短歌会、神戸大学短歌会、國學院大學短歌会、象短歌会、外大短歌会、武蔵野大学詩歌会、山梨学生短歌会、岡山大学短歌会、同志社大学短歌会、大阪芸術大学河南短歌会の計十五団体にものぼった。

今年度の合同合宿は昨年と同様に初日のお昼に顔合わせ歌会を行い、二日目に勉強会を行うという日程であった。

参加者数が多いことから、初日の顔合わせ歌会は今年度も昨年に引き続き大学ごとの偏りがでないように歌会の班を三つに分け、それぞれの司会の進行のもとに行った。事前に提出してもらった詠草をネットプリントの形で配布し、歌会は一班二十名弱の規模で四時間程度の時間をかけた。班ごとに議論は白熱し、歌会は無事に終了した。一日目の夜に宴会を行った際には班外の歌について評を交わす参加者の姿が見て取れた。

合宿二日目は朝の九時から夕方五時にかけて三つの勉強会を行った。

最初は早稲田短歌会の村本有による松平修文勉強会を行った。松平修文の歌集『水村』『原子の響き』『夢死』『蓬』からそれぞれ十首程度の歌を挙げ、参加者と共にそれぞれの歌について議論を重ねた。できた年代ごとに歌を見ることによって、時代を経るにつれて破調や口語が増えていくことや、松平修文が画家であるという背景などにもふれながら歌に情景描写が多く、またそれが暗いイメージを伴っていることも見ていった。また、一首一首の歌にふれることで花や少女など歌のモチーフとしてたびたび登場するものにも着目することができた。

二つ目の勉強会では同志社大学短歌会の田島千捺と御手洗靖大のもと、口語短歌と仮名遣いについて見ていった。初めに田島が口語短歌の生じた経緯について明治二十一年までさ

かのぼって説明していった。土岐善麿のローマ字表記による三行書き短歌など、口語短歌が普及するまでの時代ごとの歌も引用しながらそれぞれの時代の特色についても見ていった。田島の説明を受け、続いて御手洗が口語短歌の変遷と歴史的仮名遣いとは何なのかについて触れていった。『古今和歌集』に収録されている「いにしへのおんなにしもてかくばかりこひにしづまんてわらはのごと」という歌と『綺語抄』に収録されている「にはにたつあさでかりほししきしのぶあづまをんなをわすれ給ふな」を挙げ「おんな」と「をんな」のように同時代でも昔は表記にぶれがあることなどを見ながら歴史的仮名遣いとは何なのかを考えていった。

最後は京大短歌の牛尾今日子による短歌における主体についての勉強会を行った。歌に立ち現れる主体について、過去に発表された歌論といくつかの例歌を取り上げながら短歌における主体の在り方というものを勉強していった。また、現代の社会詠についても取り上げ、そこから見えてくる当事者性の問題などについても考えていった。最後に、牛尾の方から「自分の歌の主体には、何かしら自分自身の姿が現れているか」「何を表現したいと思って短歌を作っているか」「短歌が主体の彫りを深めていく文芸だとすれば、主体は倫理的（もしくは愛すべき存在）であるべきか」という三点についての問題提起があった。歌を作る側として考えさせられるものが多く、議論は活発に行われた。会場からは「歌を作らなければいけない状況にあるからこそ歌を作っている」など多数の考えが寄せられ、互いに良い刺激となった。

二日目の勉強会終了後にも宴会を行った。一日目に話すことのできなかった人と初日の顔合わせ歌会の歌について論じたり、勉強会で学んだことについて考えを深める学生の姿が多数見られ、中には朝まで語り合う者も見られた。

合同合宿は毎年九月と三月の二回開催され、三月は京大短歌が担当している。この場で初めて顔を合せる者も多く、そこから親交が深まっていく。この合同合宿を通して歌を詠む同世代の人間同士で互いに刺激を与え合い、今後の活動に影響を及ぼしていければ幸いである。

（文中全て敬称略）

贈答歌会録

担当◇小野みのり

二〇一五年十二月十五日に、恒例となっている贈答歌会を行った。
贈答歌会では、参加者に何らかの相手を想定して詠んだ贈歌を提出してもらい、集まった贈歌を司会が参加者に配分して、参加者は受け取った贈歌に返答する形で答歌を詠む。歌会においては贈答歌二首を一組として扱い、二組選とした。
以下に、寄せられた贈答歌とそれに対する評の一部を得票数の多かった順に掲載する。

贈：何故きみの金の瞳はあとかたもなく真つ黒になつたのですか　結樹双葉

答：月蝕は起こせるのです（地球よりもっとわたしを埋めてください）　間宮きりん

贈：あやまたず海に吸われる夕まぐれ上手に焼けたほうをあなたへ　小野みのり

答：あやまちを上手にたべてあやまちをおそれる君の海はあまいか　結樹双葉

神秘的なカップル。答歌は贈歌の謎めいた問いかけにうまく応答しているが、結句が分かりづらく新たな謎が残る。どことなく齟齬を感じさせるものの口調は近く、お互いへ向ける関心のバランスが取れている。

贈歌主体は成功、答歌主体は失敗と両者が別のものに着目しているのが特徴的。贈歌の「あ」の強調が答歌では「あやまち」のリフレインへと膨らんでいる。ともに贈歌主体についての内容になっており、答歌主体の様子が見えない。

贈：君が迎える一日のはじまりにいつも蛇口がありますように　榛葉純

水のようにさらさらした関係。贈歌主体のささやかな祈りに、答歌主体は大掴みながらも力強く返答している。贈歌の句またがりが目立つ。答歌の「毎日」の体言止めがやや読みづらい。両者の物理的な距離は非常に離れているようである。

答：どこかでは生きているから二人とも水の通過点として毎日　平井奈々

贈：通過する街として君もう一度遠くに君を見るための旅　平井奈々

わがままな贈歌主体を答歌主体が謙虚に受け入れている。両者に温度差はないものの、贈歌が旅という非日常にあるのに対し答歌は日常に即しており、対比的である。贈歌主体の「君」に対する現在の感情が読み取りにくい。

答：地図にない名前だけれど君だけの街として冬のひと日を歩く　佐々木遥

贈：はるけさをあなたと呼んでしまうたび脳のなかの花を濡らせり　佐々木遥

うまくいっていないが、遠距離にありながらも互いを思う組。静的・動的、濡れる・乾くなど、贈答歌間の対比が強く意識される。答歌初句がどこにかかるかで二者の関係性に読みぶれが生じる。

答：いつまでも呼ばれたかった名を提げて乾きっきりの砂地を進む　小野みのり

贈：雪もよの吐き気さえする美しさ　美しさはあなたの面影　溝口ゆこ

答：君が痛く痛くさえずった気配　雪の降らない街で震える　榛葉純

自意識の強い贈歌主体に、控えめな答歌主体が寄り添うカップル。贈歌下句・答歌上句の韻律があまりよくなく、不安定な関係を思わせる。「美しさ」「痛く」のリフレインが過剰さを生んでいる。

贈：如月の水の中にぞ蛙ある巣が彼を守りて危機を逃るる　木村健太

答：こちかぜにいさよふ波のささなみの寄るべなき身を浮かべたるかな　谷口一平

贈歌は「君が好き」の折句。彼＝蛙の関係が一読では分かりづらい。贈歌の景を答歌が補足している。文体には統一感があるが、二首とも他者に向けられているとは言い難く、贈答の特性を活かしきれていない。

贈：虚数だけ求めるような日々だから君のオセロは白くしとくね　谷村行海

答：この試合わざと負けるわ寒煙は砂糖のように溶け込む黒へ　溝口ゆこ

互いにゲーム感覚の関係で、どこか空しさがある。贈歌主体が求める虚数は愛のことか、下句への理由付けとしてはやや強引。答歌の景は魅力的だが、新たなモチーフが多い。手持ちの石の色については情報を補完しあっている。

贈：欲しい物リストにないものだけがほしい　あなたときのう行く美術館　谷口一平

夢見がちな贈歌主体と冷静な答歌主体のバランスがいい。贈歌は上下の関連性が薄く矛盾もあるのに対し、答歌は一首で説明がついて完結している。贈答歌間で「ほしい」の性質が異なり、似ているように見えるがあまり対応していない。

答：本棚で自然なねむりについてほしい　きみのおととい吐いた口癖　谷村行海

贈歌上句が圧縮されておりやや読みづらい。答歌が贈歌三句目をそのまま初句にしていて、語彙が少ない印象を与える。まとまりすぎているため、両者の差や発展性があまり感じられない。

贈：見えるのは君がラムネを噛み砕く　いつもどおりの朝はまぶしい　間宮きりん

答：噛み砕くラムネの音は小気味よく　君との日々は今日も輝く　木村健太

二〇一五年度活動記録

文責◇榛葉純

※（）内は担当者

3月31日～4月3日　新歓ブース設置、貼り紙・ビラ配りなど（箱囲）

■4月

4日（土）新歓お花見・歌会（深見）
7日（火）新歓歌会（當山）
10日（金）新歓歌会（箱囲）
13日（月）新歓勉強会（谷村・間宮）
16日（木）新歓歌会（平井）
21日（火）新歓歌会（鈴木）
24日（金）東直子勉強会（榛葉）

■5月

9日（土）歌会・新歓コンパ（榛葉）
22日（金）歌会（小野）
26日（火）歌会（村本）

■6月

5日（金）歌会（谷口）
9日（火）歌会（谷村）
19日（金）歌会（高橋）
23日（火）小島ゆかり勉強会（深見）

■7月　公式活動はなし

■8月

11日（火）歌会・前期納会（佐々木）

■9月

4～6日　学生短歌会合同夏合宿@東京（谷村・溝口）

■10月

6日（火）歌会（小野）
16日（金）歌会（箱囲）
20日（火）歌会（坂田）
30日（金）歌会（堀川）

■11月

3日（火）歌会（渡辺）
13日（金）歌会（間宮）
17日（火）歌会（谷村）
27日（金）歌会（大村）

■12月

11日（金）歌会（榛葉）
15日（火）贈答歌会（小野）

■1月

8日（金）歌会（佐々木）
15日（金）歌会（谷口）
19日（火）歌会（谷村）

■2月

5日（金）歌会・後期納会（関根）

■3月

6日（日）「学生短歌バトル２０１６　学生短歌対抗超歌合」出場
10日（木）早稲田短歌四十五号発行
22～24日　学生短歌会合同春合宿@京都